

お詫びと訂正

「結核の接触者健康診断の手引きとその解説 令和4年改訂版」49pの表12の一部に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

2歳未満の乳幼児の登録直後最優先接触者のカラムの1行目

(誤)・IGRA and/or ツ反検査 ⇒ (正)・基本はIGRA and ツ反

表12 接触者の優先度等に応じた健診の実施時期, 内容, および事後対応

接触者の年齢等	健診目的	健診の実施時期	第一同心円		第二同心円
			最優先接触者	優先接触者	低優先接触者
2歳未満の乳幼児	LTBIの発見と進展防止	登録直後	<ul style="list-style-type: none"> ・基本はIGRA and ツ反→ 陽性者に胸部X線検査 ・BCG未接種児に対してツ反を優先実施し, ツ反が陰性でも, 接触歴等から感染リスクが高いと判断された者にはIGRAを追加実施 <p style="margin-left: 20px;">→ 「IGRA陽性者」及び「塗抹陽性患者との接触歴ありでBCG未接種のツ反陽性者」などについては発病の有無を入念に精査(医療機関へ紹介)</p>	—	—
		2～3カ月後(※1)	同上		
		事後対応(※6)	<ul style="list-style-type: none"> ・上記のIGRA(又はツ反)の結果, 感染あり(疑い)と診断 → 潜在性結核感染症(LTBI)としての治療を指示 ・直後のIGRA・ツ反が共に陰性であっても, BCG未接種児の場合などは, ウィンドウ期を考慮 → LTBIとしての治療を検討 ・最終接触から2～3カ月後もIGRA・ツ反が共に陰性 → ここで健診は終了(※3) 		
	患者の早期発見	6カ月後～2年後まで	<ul style="list-style-type: none"> ・上記で感染あり(疑い)と診断したが, LTBIとしての治療を実施できなかった場合 → 胸部X線検査(概ね6カ月間隔) 	—	—